

株式会社クレディセゾン(8253) 2011年度4-6月期決算発表
当期純利益 98億円(前年同期比 46.3%増)

クレディセゾンの2011年度4-6月期の連結決算は、営業収益 644億円(前年同期比 11.9%減)、経常利益 128億円(同 2.1%増)、当期純利益 98億円(同 46.3%増)となりました。営業収益については、震災後に落ち込んでいたショッピング取扱高が回復基調に転じたことにより、ほぼ計画通りの進捗となりました。また、経常利益及び四半期純利益については、与信管理と債権回収の強化やコスト効率の向上に加え、弁護士等による第三者介入債権の沈静化に伴い貸倒コストが減少したことにより、利益計画を上回り増益となりました。当該連結累計期間の業績概況は次の通りです。

1.営業収益概況(営業収益:644億円 前年同期比 11.9%減)

主力の「クレジットサービス事業」(営業収益:500億円 前年同期比 15.5%減)(セブンCSカードの影響を除く前年同期比 12.5%減)において、アメリカン・エクスプレス・カード等稼働効率の高いプレミアムカードの獲得強化をはじめ、ネットサービスの機能向上によるネット会員の拡大等、収益力強化に注力いたしました。4月のショッピング取扱高は震災の影響が残り落ち込みましたが5月、6月と回復基調が続き、4-6月期合計の取扱高は前年同期比 3%増(セブンCSカードの影響除く)となりました。しかしながら、貸金業法改定に伴う総量規制によりキャッシング残高が減少したこと等により減収となりました。「リース事業」(営業収益:36億円 前年同期比 1.6%増)では、既存取引先への営業強化及び新規提携販売店の拡大を推進しており、増収となりました。「ファイナンス事業」(営業収益:37億円 前年同期比 2.5%減)では、フラット35の実行件数伸張により収益が増加した一方、不動産担保ローンの残高が減少したことにより、同事業全体では減収となりました。「不動産関連事業」(営業収益:38億円 前年同期比 32.9%増)においては、販売用不動産の売却を進める一方、資産の入れ替えや圧縮等資産効率の向上に取り組み、不動産売上高が増加したことにより増収となりました。

2.経常利益・当期純利益概況(経常利益:128億円 前年同期比 2.1%増 当期純利益:98億円 同 46.3%増)

債権管理の強化やコスト効率の向上に加え、弁護士等による第三者介入債権の沈静化に伴う貸倒コストの減少により、営業費用は 531億円(前年同期比 13.9%減)となりました。また、カード合弁会社をはじめとした持分法適用の関連会社の業績が順調に推移し、持分法投資利益が 6億円(前年同期比 34.0%増)と貢献したこと等により増益となりました。なお、(株)セブンCSカードサービスの一部株式を譲渡した売却益を特別利益に計上いたしました。

3.2011 年度業績予想

2011 年度第 2 四半期累計期間及び通期業績予想につきましては、前回公表(2011 年 5 月 13 日)の業績予想に変更はございません。2011 年度 4-6 月期の業績は前回公表の業績予想に対する進捗率としては高いものとなっておりますが、依然として当社グループを取り巻く経営環境は厳しく、今後の東日本大震災による債権リスクや消費動向への影響等を精査する必要がございます。現時点においては、前回公表の業績予想の見直しを行っておりませんが、精査した結果、業績予想の見直しが必要な場合には速やかに公表してまいります。

◆2011 年度 4-6 月期の単体業績

※〔 〕セブンCSカード事業分割の影響除く

(1)新規カード開拓枚数	:	63 万枚		
(2)新規カード発行枚数	:	47 万枚		
(3)カード総会員数	:	2,505 万人		
(4)稼働会員数	:	1,284 万人		
(5)稼働率	:	51.3%	(前年同期差+0.2%)	
(6)カードショッピング取扱高	:	8,191 億円	(前年同期比 15%減)	※〔同 3%増〕
(7)カードショッピングリボ残高	:	2,618 億円	(前年同期比 12%減)	※〔同 3%増〕
(8)カードキャッシング取扱高	:	689 億円	(前年同期比 46%減)	※〔同 42%減〕
(9)カードキャッシング残高	:	3,493 億円	(前年同期比 32%減)	※〔同 28%減〕
(10)営業収益	:	532 億円	(前年同期比 14%減)	
(11)経常利益	:	103 億円	(前年同期比 4%減)	
(12)当期純利益	:	79 億円	(前年同期比 45%増)	

以上